

第六十二回全国俳句大会 当日句成績

日時 令和五年九月十二日

会場 有楽町朝日ホール

菅野 孝夫選

特選

ラクビーのゴールポストや翳雲

萩原 敏子

虫食と知りつつ拾ふ山の栗

長谷部かず代

落葉松に落葉松の雨秋の雨

内田恵里子

入選

秋の夜や本に囲まれ本読まず

吉田 鐵雄

夜は鳥の止り木となる案山子かな

村上喜代子

よろこびのかたち手中に桃ひとつ

桂田 哲夫

牛乳は朝の匂ひや震災忌

藤川 英司

昼酒となつてしまひぬ菊脛

結城 あき

新涼や東京へ行く髪切つて

今井 文雄

封筒の中でころがる木の実かな

及川 光代

虫の音や今宵湯舟を溢れしむ

伊藤 隆子

新涼の待合室に湿布の香

栃尾 智子

伏す夫の部屋真つ先に障子貼る

高井美智子

夕月やタワーマンション少し邪魔

町山 公孝

母にまだ零余子の蔓を引く力

山下由理子

朝顔の風吹き抜くる校長室

若林杜紀子

月涼し産寧坂の甘味店

張本 弘子

散らかして家飛び出せば翳雲

菊田 和音

中西 夕紀選

特選

いわし雲一便早く赴任地へ

茨木 紀子

海のほか見えぬ岬や鷹渡る

田村登代子

秋晴や白きポケットチーフさし

牛田 修嗣

入選

吾健と書きたる子規を修しけり

金田志津枝

ははの声忘れし耳や法師蟬

石川 笙児

毀たる生家見にゆく秋日傘

山崎 崇世

新蕎麦や笹を抜け出る井戸の水

関戸 信治

放課後をつんざくドラム晩夏光

鈴木ちひろ

嬰いつも尻より笑ひ秋桜

櫛部 天思

爽やかや今日正装のイヤリング

菊田 一平

鳥小屋の小さき入口鳳仙花

関 波対子

月を見る母見てゐるといふ月を

入部 美樹

語りくる音色のチェロや秋の夜

清水佑実子

帆柱に小さき鐘あり秋の昼

衣川 由美

船旅の支度のひとつ水着買ふ

佐瀬はま代

種嚙めば苦味弾けるかぼすかな

星野 麻子

洗はれて真白き雲や子規忌来る

臺目 良雨

月を見に鼻緒のゆるき旅の下駄

小西 弘子

檜山 哲彦選

特選

北海のあをが焦げゆく秋刀魚かな

高橋 流行

牛乳は朝の匂や震災忌

藤川 英司

嬰いつも尻より笑ひ秋桜

櫛部 天思

入選

吾健と書きたる子規を修しけり

金田志津枝

ははの声忘れし耳や法師蟬

石川 笙児

夜は鳥の止り木となる案山子かな

村上喜代子

よろこびのかたち手中に桃ひとつ

桂田 哲夫

不二の嶺は大いなる影立版古

清水 和代

朝冷や青い服しぼれば青い水

しまだ桃子

八千草や日蔭は水の音をさせ

中島真由美

掌中にあり烈日の椿の実

鈴木しげを

大陸の夕日の色の棗かな

大西 朋

はらからの多き雀や稲架襖

大矢知順子

水の秋スカートに台形の風

長尾 良子

木蔭から木蔭伝ひの虫時雨

千葉 美森

雲梯を渡りきる子よ小鳥来る

牧田ひとみ

洗はれて真白き雲や子規忌来る
木歩忌のあをき大川海猫帰る

臺目 良雨
浦田 祐子

藤田 直子選

特選

曲がりたる大き古釘震災忌
保育器の二百十日のつむじかな
よろこびのかたち手中に桃ひとつ

山本ふぢな
前田 拓
桂田 哲夫

入選

白玉や戦下くぐりて来し父と
虫遊びとも美しき月日とも
まづ踊る婦人部そして青年部
月山のまこと大きな西瓜切る
家を発つ切り火打つかに鴟のこゑ
水澄める極みや水の無き如し
恐竜を呑みこんだ野に虫の声
鳥小屋の小さき入口鳳仙花
はらからの多き雀や稲架襖
寺の子の一人遊びや盂蘭盆会
蓮の実飛ぶ風と遊んでゐるうちに
船旅の支度のひとつ水着買ふ
雲梯を渡りきる子よ小鳥来る
跡取りの輕輕かつぐ今年米
散らかりし家飛び出せば翳雲

角宮しづか
井越 芳子
福井 隆子
青木百々子
中坪 達哉
石井いさお
高原 沙羅
関 波対子
大矢知順子
影山十二香
苗村登志子
佐瀬はま代
牧田ひとみ
木村麻利子
菊田 和音

森岡正作選

特選

月山のまこと大きな西瓜切る
籠を編む竹の弾けて涼新た
母にまだ零余子の蔓を引く力

青木百々子
石井 洋子
山下由理子

入選

命毛の十六夜の墨吸ひにけり
夕日まだ山の端にあり鬼やんま
飛び入りの所作の遅るる踊の輪
駝鳥舎の卵の展示水灼くる

曾根新五郎
佐藤 公子
工藤 文子
中妻ゆうこ

天守閣なき大江戸や秋の空

田子 慕子

海を恋ふ秋刀魚の眼並べけり

池田久美子

楽屋口小さく閉ざす星月夜

福林 裕之

秋の人鳥佇みて「ふ」のかたち

菅原 健一

大陸の夕日の色の棗かな

大西 朋

み仏の耳みな大き猿茸

藤田 藍

鳥小屋の小さき入口鳳仙花

関波 対子

貝塚の貝ささめける無月かな

梅田 美代

虫食と知りつつ拾ふ山の栗

長谷部かず代

秋扇に話のつぎほ捜しをり

日暮 邦子

つくつくし遺品に為すべきことのメモ

石崎 宏子

山西 雅子選

特選

ははの声忘れし耳や法師蟬

石川 笙児

鳥小屋の小さき入口鳳仙花

関 波対子

虹淡く夕べにかかり吾も淡し

平間 裕子

入選

天高しペコちゃんの待つ交差点

竹本 悠

手を翳す真正面の大西日

福井 史郎

引揚げを聞かず仕舞ひに秋彼岸

小倉 天翔

いわし雲一便早く赴任地へ

茨木 紀子

掌中にあり烈日の椿の実

鈴木しげを

コスモスの車椅子押す目の高さ

竹下 幸子

秋澄むや音拾ひゆく雑木山

布施 政子

振花のねじれねじれてああ疲れ

小林たまご

秋水や落としてみたき銀の斧

川上えりさ

封筒の中でころがる木の実かな

石川 光代

町筋を削りて撥ねる荒神輿

松原 吉信

貝塚の貝ささめける無月かな

梅田 実代

溝萩の溢れ浮島華やげり

平野きらら

一匹ずつ懸命に鳴く町の蟬

阿川 暢子

筆折りし母の句集や秋燈下

岩田 玲子